

この投稿は、学会の見解を示すものではなく個人の責任においてなされたものです。  
一切の責任は、投稿者本人に帰するものとします。

バージニアからの手紙

### 第3回 シャーロットビルとバージニア大学

シャーロットビルは中部バージニアに位置している都市である。首都ワシントンDCから国道29号線を、ブルーリッジの山々とその裾に広がる田園を見ながら、車で2時間程南下すると古い街シャーロットビルに到着する。シャーロットビルは第3代大統領トーマス・ジェファソン（1743-1826）の縁の地である。シャーロットビルは1761年にバージニア州のアルバマール郡の中心を担う街として誕生した。バージニア州の地名には、英国の植民地であった時代の歴史を反映して当時の英国王室の人名を付けた都市や街の名が多い。シャーロットビルの名もしかりで、街の建設時に英国王ジョージ3世の王妃であったシャーロットに由来する。

1762年に本格的に街の建設が始まった。ジェファソンの父であるピーター・ジェファソンは、何も無い土地を彼自ら測量し裁判所の位置を決め道路を作ったという。当時の開拓民の気質を彷彿とさせる、実に興味深い話である。色々なもめごとが多くその為に裁判をする場所が不可欠であったのであろう。やがて、その並びに小さなホテルや居酒屋そして奴隷市場や弁護士事務所等ができた。これが今日ダウントウンモールと呼ばれている繁華街の始まりである。繁華街と言っても規模は小さく全長1キロ余りであり、現在も当時のままの形でモールが存在している。裁判所はモールから一段上がった通りにあり、周辺は弁護士事務所が今も昔のままの建造物の一部を改造し使用している。ダウントウンモールこそがシャーロットビルの発祥の地であるが、現在街は拡大してバージニア州の中でもリッチモンドに次ぐ大きな都市となり、国勢調査によると2012年の人口は、推定で43,956人に上る。

このシャーロットビルの街中に存在する州立大学がバージニア大学である。広大な大学敷地内にはコンサートホールや美術館、そして各スポーツの競技場や学生寮等などが建ち、街の人口の半分にも匹敵する約21,000名もの学生が在籍している。バージニア大学はシャーロットビルの市民の文化的な活動の中心であるとともに、その歴史からも街との関係の深さをうかがうことができる。シャーロットビルという街は、正に“大学都市”と言える。

このバージニア大学は公職を去ったトーマス・ジェファソンが1819年に創設した州立大学で、1825年に開校した。彼は広大なプランテーションの地主であり、政治家、建築家、科学者、弁護士でもあった。何よりも独立宣言の起草者として日本では有名であるが、希にみる多彩な才能の持ち主であった。大学は彼自ら設計、測量をした。土地の一部は第5代大統領ジェームズ・モンローが売却した農地であったが、言わば正にジェファソンの大学である。古代ローマの神殿パテオンを模した白亜の円柱を表に施した煉瓦建

築はロタンダと呼ばれている。このロタンダを北において芝生を囲み両サイドに学生と教授の部屋が並ぶ回廊をローンと言う。

ジェファソンはその大学の建設構想で、ロタンダから遠方を見渡せる眺望にこだわり、その為ロタンダの反対側には建造物の建設を拒んだ。なぜなら、ロタンダを北にすると南となる遠方彼方には、当時存在していたアメリカ原住民インディアンのテントが並んでいたからだ。彼はその姿を美しいとしその景色を残そうとしたと言われていた。大学完成後はジェファソン自らも教壇に立ち、晩年は自宅から望遠鏡で大学を眺めるのが楽しみであったと言う説もある。残念ながら現在はインディアンのテントもその面影もなくなってしまい、この地にコンサートホールが建てられている。

大学は1895年10月には火災に遭いながらも復元された。最終的には1976年にジェファソンの設計通りに復元され、現在その姿を見ることが出来る。後年次々に建設された学部の建物もジェファソンの意をくみ、外壁には大方の建物が赤煉瓦を使用している。シャーロットビルの街も同様に煉瓦建ての建物が多い。米国の大学では、通常大学敷地をキャンパスと呼ぶが、バージニア大学ではローンを中心にしたキャンパスをグラウンズと呼ぶ。そして法学部やビジネススクールがあるキャンパスも北グラウンズと呼ばれている。そうした言葉づかい一つ一つにも、ジェファソンを創始者とする大学の歴史に対する思いの強さがうかがわれる。

ちなみに、後のアメリカの偉大な詩人であり作家でもあるエドガー・アランポーは第一期生の学生としてローンに住み勉強していた。彼が使用していた部屋は現在も残されている。21世紀の今でも限られた学生ではあるが、近代的な寄宿舎やアパートに移らずローンに住み、昔のままの設備の小さな部屋で勉強している。そのローンに入れたことに誇りを持っているのかもしれない。この中庭は毎年5月の卒業式が行われる場所でもある。

大学の組織の在り方も設立当時のまま受け継がれている。ジェファソン当時は **Rector** と呼ばれ現在は **President** と呼ばれるバージニア大学の学長を選出するのは、評議会、**the Board of Visitors** である。17名の評議員は通常州知事によって選ばれ、任期は4年である。1826年にジェームス・マジソンが学長に就任した際は、第5代大統領となるジェームス・モンローが評議会委員の一人であった。



赤煉瓦と白亜の円柱（バージニア大学のロタンダ（左）と図書館（右））

そうした歴史を持ったバージニア大学で2012年6月に起こった学長降ろし騒動は、一つの政治的なドラマであった。2010年1月11日に大学設立以来初の女性学長が誕生した。前述の通り、評議会が彼女を学長に選出したのである。ところが就任から2年経った2012年6月8日に突如、評議会会長及び副会長から学長に対して直接、学長職を辞任するよう求める要請が提出された。これを受けて学長は8月15日をもって辞任すると公表した。しかし、辞任に絡む問題の主旨が理解できない大学側が評議会に対して説明を迫った所、評議会からの回答は、学長は2年間の在籍中公的資金を含めて資金集めの活動を全くしていないとの指摘であった。米国の大学での学長職はいかに競争的資金を集めるかが強く求められている。如何に多種多様な資金集めを積極的におこない、多くの資金を集めるかが州立大学であっても学長職のもっとも重要な職務であり、その量の多さと質の高さで学長は評価される。

この学長降ろし騒動は連日地方の新聞やテレビのみならずワシントンポストといったメディアにも取り上げられ、賑やかな報道が繰り広げられた。学生達は既に5月の卒業式も学期も終わりそれぞれが親元に戻る時期であったがロタンダで抗議集会を開き、教授達は教授会やら様々な集会を開き評議会に抗議の書簡を提出した。そして逆に評議会の2名を名指しで辞職するよう要請した。そして全ての決定が知事にゆだねられることとなった。その結果、学長は任期まで留まる事になり、騒ぎを起こした会長及び副会長もそのまま残留した。会長は女性で州知事のお気に入りの人であったお蔭で辞職を免れたと一部では言われた。

我々から見ると不思議な要素が目につく。学長は一旦辞職表明をしたにも関わらず、知事の一存で残留している。そして評議会会長と副会長は、突然学長に辞職を求めた理由を含め事前に教授会や学生に何も報告しなかったことについて、謝罪の言葉もなく評議員の椅子にそのまま座っている。

この地球上で一早くデモクラシーを旗印に建国したアメリカだが、このように色々な場面で首を傾けたくなることも少なくない。しかし一方で、この学長降ろし騒動の後、当時現職だった共和党知事に対して、次期州知事に民主党を望む声が止まらず、2013年11月の知事選挙ではこの共和党前任者は落選した。ちなみに、この州知事選挙の直前には大統領選と同様に、街のあちこちの家の前に民主党候補、共和党候補のプラカードが見られた。この選挙プラカードは選挙立候補者が掲げているのではなく、あくまでも党を支持する国民の意思で個人的に行われている。日本の選挙との大きな違いの一つであり、アメリカのデモクラシーを垣間見ることができる出来事であった。

広大な土地を父親から遺産として受けたトーマス・ジェファソンはその一角にモンテチェロと名付けた屋敷をもうけた。モンテチェロとはイタリア語で小高い丘の意味である。屋敷は大学と同じ様に白亜の円柱と煉瓦で出来ている。このモンテチェロとバージニア大学はユネスコの世界遺産として登録されている。米国の多くの国立公園はユネスコの世界遺産に登録されているが、建造物はバージニア大学とモンテチェロ、そして自由の女神の

みである。通常はUVA (University of Virginia) と今流に呼んでいるバージニア大学だが、創設者が大学を「学術村(Academical Village)」と呼んでいた意思是現在の学生や教職員の心にも現存している。今回の学長降ろし騒動の顛末は、日本人には理解しきれないところではあるが、そうした精神の反映なのかもしれない。

2013年11月

バージニア州、シャーロットビル在住

渡辺 和子